

(書式 2)

## 学会参加報告書

提出日 26 年 7 月 17 日

学籍番号	14N0012	学系	トレーニング科学系
氏名	齋藤愛見		
学会等名 (正式名称)	19 <sup>th</sup> Annual Congress of the European College of Sports Science		
開催日程	2014年 7 月 2 日 ~ 2014年 7 月 6 日		
開催場所 (国・都市名)	オランダ、アムステルダム		
発表演題名	EFFECT OF TURNED-OUT ANGLE ON ERECT STANDING POSTURE AND DEMI-PLIE POSTURE IN ADULT AND CHILD BALLET DANCERS		
参加報告 ・項目別に具体的に記載する。	<p>&lt;学会の全体の印象&gt; ヨーロッパ全土から多く研究者が集う本学会は、会場の至る所で専門的議論や情報交換が繰り広げられ、活気に溢れていた。特に、多くの若い研究者が、丹念な研究の成果を積極的に口頭発表しており、多くの刺激を受けることができた。</p> <p>&lt;自分の研究と関連した発表とその内容&gt; [Inter-dancer difference in muscle activities at joint phase transition during tiptoe standing in classical ballet]と題する発表で、バレエダンサーがつま先立ちで立っている間の神経と筋肉のメカニズムを明らかにし、筋肉のコーディネーションを筋電図によって調査したものである。結果は、遠位の共同の調整はインフェーズ変動を持つ傾向があり、コーディネーションは増加する傾向があった。さらにバレエダンサーには特有のコーディネーションとタイムラグが見られた。この研究では、ダンサーに特有の筋活動によって隣接した関節の角変位間のコーディネーションを生成できる可能性が示唆された。</p> <p>&lt;自身の発表への質問・コメント&gt; 私の e-poster による発表では口頭発表の機会を得なかったが poster の内容についての詳細を質問されることや、具体的なバレエ指導法のアイデアについて他研究者と話す機会を得た。幼児への具体的な指導法に結びつけて議論するためには、幼児の姿勢について筋や脊柱の発育発達をより深く学ぶ必要があると感じ、今後の研究について課題を見いだすことができた。</p>		

※ 補助金を受けた学生はこの学会参加報告書を提出すること。  
提出期限は学会終了後2週間以内とする。